

< あなたの治療について >


血内-Brentuximab Vedotin 単独-PTCL-q3w

今回の治療は、Brentuximab Vedotin 単独療法という治療法で、アドセトリス（ADC）という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間で1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を3週間（21日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~21日目
	アドセトリス (抗がん剤) 1.8mg/kg	点滴 約1時間		お休み

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなつてはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について（頻度20%以上）

アドセトリスについて

白血球減少・好中球減少・リンパ球減少・貧血 LDH 増加 ALT 増加・AST 増加
食欲減退 発疹 下痢 疲労 鼻咽頭炎 上気道感染 末梢性感覚ニューロパチー

特徴的な副作用について

アドセトリスにおける

Infusion reaction

「呼吸困難、意識の低下、意識の消失、まぶた・唇・舌のはれ、発熱、寒気、嘔吐、咳、めまい、動悸」などの症状

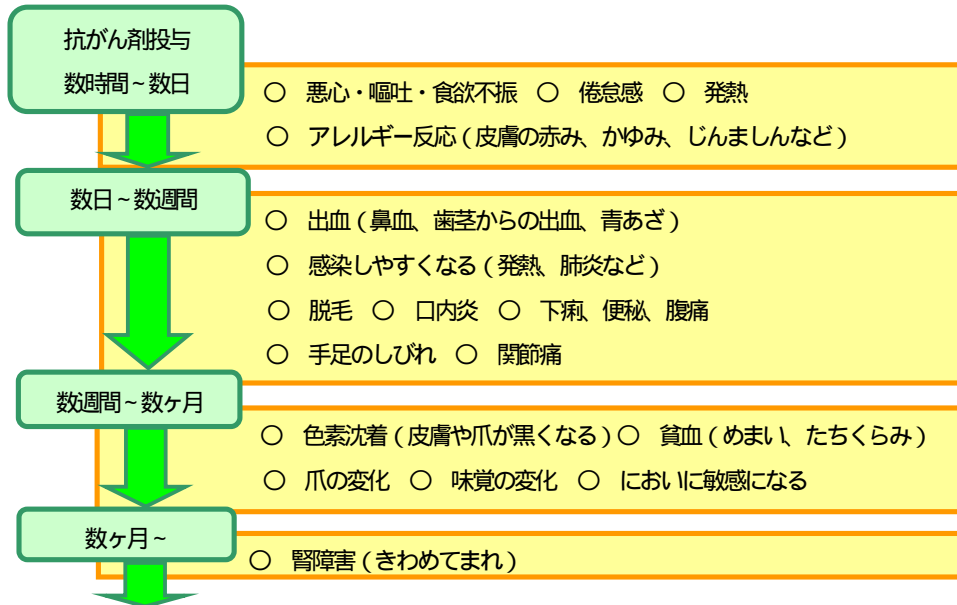
* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

薬品毎の副作用について(添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋)

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【アドセトリス】

<末梢神経障害>手足のしびれ、手足の痛み、手足の感覚がなくなる、手足の力が入らない、物がつかみづらい、歩行時につまずく

<感染症>体がだるい、発熱、寒気、咳、痰、息切れ、息苦しい、脈が速くなる

<進行性多発性白質脳症(PML)>けいれん、意識の低下、意識の消失、しゃべりにくい、物忘れをする、手足のまひ

<骨髄抑制>発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきの出血、息切れ、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、息切れ

<インフュージョンリアクション>呼吸困難、意識の低下、意識の消失、まぶた・唇・舌のはれ、発熱、寒気、嘔吐、咳、めまい、動悸

<腫瘍崩壊症候群>意識の低下、意識の消失、尿量が減る、息苦しい、息切れ

<皮膚粘膜眼症候群(スティーブンス・ジョンソン症候群)>発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する

<急性肺炎>吐き気、嘔吐、激しい上腹部の痛み、背中での痛み、お腹にあざができる、お腹が張る

<劇症肝炎、肝機能障害>急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる(鮮紅色～暗赤色または黒色) 疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振

<肺障害>発熱、咳、痰、息苦しい、息切れ、呼吸がはやくなる、脈が速くなる、手足の爪が青紫～暗紫色になる、唇が青紫色になる

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。